説明的文章 段落の役割・要旨の捉え方

1 対話とは、真理を求める会話である。対話とは、何かの問いに答えようとして、あるいは、自分の考えが正しいのかどうかを知ろうとして、誰かと話し合い、真理を探求する会話のことである。ただ情報を検索すれば得られる単純な事実ではなく、きちんと検討しなければ得られない真理を得たいときに、人は対話をする。それは、自分を変えようとしている人が取り組むコミュニケーションである。

2 ショッピングや仕事でのやり取りは、自分の要望と相手の要望をすり合わせようとする交渉である。友人や恋人との会話は、よい関係を保ち、相手を理解し、互いに話を楽しもうとする交流である。これらの会話は有意義かもしれないが、真理の追求を目的としてはいない。対話は、何かの真理を得ようとして互いに意見や思考を検討し合うことである。

3 私たちは日常生活の中で、ほとんど対話する機会がないのではないだろうか。それは、真理の追求が日常生活で行われなくなっているからである。だが実は、対話をしなければならない場面は、日常生活の中にも、思ったよりもたくさんあるのだ。

4 仕事場でも、ただ当面の与えられた業務をこなすだけではなく、仕事全体の方向性や意味が問われる場合、たとえば、「良い製品とは何か」「今はどういう時代で、どのような価値を消費者は求めているのか」「環境問題に対して、我が社は頬かむりをしていていいのか」など真剣に論じるべきテーマは少なくないだろう。家庭でも、子どもの教育をめぐって、そもそも子どもにとっての良い人生とはなにか、そのために何を学んでほしいのか、親と子どもとはどういう関係なのか、子離れするとはどういうことか、これらのことについて家族で話し合う必要はないだろうか。地域でも、どのような地域を目指せばいいのか、住人はどのような価値を重んじているのか、以前からの住人と新しく来た人たちはどう交流すればよいか。本当はこうしたことについて膝を突き合わせて対話する必要があるのではないだろうか。

（河野哲也『人は語り続けるとき、考えていない　対話と思考の哲学』岩波書店　による）

例題

2段落の内容について、正しく述べたものを選びなさい。

ア　対話の具体的な事例を挙げ、1段落の内容をわかりやすく述べている。

イ　対話ではない事例を挙げ、1段落で示した対話の特徴を説明している。

ウ　対話の長所と短所を述べ、1段落の論を発展させながら筆者の主張を提示している。

〔　　〕

段落の役割と要旨

説明的文章を読むときには、各段落の文章中での役割に注目するとよい。

導入 **話題提示** **問い**	話題に導く。 話題を提示する。
根拠 **具体例** **答え**	根拠（こんきょ）を示す。 例や対比を用いて具体的に説明をする。
まとめ **主張**	説明をまとめる。 筆者の主張を示す。

特に説明的文章では、「問い」を投げかけるかたちで**話題**が示されることが多い。「問い」と、それに対する「答え」に注目すると、文章の**要旨**（文章の中で最も伝えたいこと）を捉（とら）えやすくなる。

また、序論・本論・結論のまとまりにも注目するとよい。

・**序論**…話題を提示する。
・**本論**…事例や根拠を挙げて具体的に説明する。
・**結論**…内容をまとめる。主張を述べる。

（文章の構成の例）
・頭括（とうかつ）型　**結論**　→　本論
・尾括（びかつ）型　（導入）　本論　→　**結論**
・双括（そうかつ）型　**結論**　→　本論　→　**結論**

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) [4]段落の内容について、正しく述べたものを選びなさい。

ア 具体的な事例を挙げ、[3]段落の内容に説得力をもたせている。
イ 対照的な事例を挙げ、[3]段落から話題を転換（てんかん）している。
ウ 予想される反論を示し、[3]段落に補足説明を行っている。

［　　］

(2) 本文を、次の内容のまとまりで前半と後半に分けたとき、後半はどの段落から始まるか。段落番号を答えなさい。

前半　対話は、真理を探求する会話であるということの説明。
後半　日常生活における対話の必要性についての問題提起。

［　　］

(3) 次のそれぞれの会話は「交渉」「交流」「対話」のどれに当たるか。

ア 相手とのよい関係を保ち、互いに話を楽しもうとする会話。
イ 自分の要望と相手の要望をすり合わせるためにする会話。
ウ 真理を得ようとして互いに意見や思考を検討しあう会話。

交渉［　　］　交流［　　］　対話［　　］